

<特集「他動性」「(連用修飾的)複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」他>

マラーティー語：

特集補遺データ:「他動性」「(連用修飾的)複文」「情報構造と名詞述語文」「情報標示の諸要素」
「否定, 形容詞と連体修飾複文」

Marathi:

‘Transitivity’, ‘Complex sentences of adverbial modification’, ‘Information structure and nominal
predicate sentences’, ‘Markers of information structure’ and
‘Negation, adjectives, and complex sentences of adnominal modification’

千田 聡美
Satomi Chida

デカン大学院大学 言語学博士課程修了
Ph.D. in Linguistics, Deccan College Post-Graduate and Research Institute

要旨：本稿は特集補遺「他動性」「(連用修飾的)複文」「情報構造と名詞述語文」「情報標示の諸要素」
「否定, 形容詞と連体修飾複文」(『語学研究所論集』第 19-23 号, 2014-2018, 東京外国語大学)に寄与
するものである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘transitivity’, ‘complex sentences of adverbial
modification’, ‘information structure and nominal predicate sentences’, ‘markers of information structure’ and
‘negation, adjectives, and complex sentences of adnominal modification’ (Journal of the Institute of Language
Research 19-23, 2014-2018, Tokyo University of Foreign Studies).

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002001036>

キーワード：マラーティー語, インド・アーリア語派, 言語類型論, 言語間対照

Keywords: Marathi, Indo-Aryan languages, linguistic typology, contrastive linguistics

1. はじめに

本稿は、『語学研究所論集』第 19-23 号 (2014-2018) の 5 種類の特集テーマに関してマラーティー語の
データを提示する¹。本稿は千田 (2023) の続編であるため、データ収集やデータ提示方法は前編と同じ
である²。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ マラーティー語の概要については、前編の千田 (2023) pp.1-2 で詳述している。

² 千田 (2023) では、特集補遺「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・
存在表現」の 5 つのテーマに関してマラーティー語のデータを提示した。

2. データ

6. 「他動性」(語研論集 第19号)

他動性とは、動作が対象にもたらす影響の度合いのことである。一般的に、他動性は他動詞か否かの問題ではなく、連続的・段階的なものであると考えられている。

他動性と関連してマラーティー語に特徴的な点は、以下の2つである。

まず、マラーティー語には有対動詞と無対動詞が存在する³。パルデシ (2010) によると、マラーティー語の有対動詞は (1) 自動詞と他動詞が同形のペア (例: *ughad-ne* 開く), (2) 自動詞の語幹内の短母音を長母音化して他動詞を作るペア (例: *mar-ne* 死ぬ / *mār-ne* 殺す), (3) 自動詞の語幹内の子音を変化させて他動詞を作るペア (例: *phāṭ-ne* 破れる / *phāḍ-ne* 破る), (4) 自動詞の語幹内の子音と母音の両方を変化させるペア (例: *tuṭ-ne* 壊れる / *toḍ-ne* 壊す), (5) [名詞]+なる (自動詞) と [名詞]+する (他動詞) のペア (例: *band ho-ne* 閉まる / *band kar-ne* 閉める) がある。

次に、マラーティー語は分裂能格言語 (split-ergative language) である。自動詞の主語は形態的に無標であるのに対して、他動詞は3人称の完結相のみ主語に能格後置詞 (-*ne* [単数]/-*ni* [複数]) が用いられる⁴。動詞は基本的に主語の数、性、人称と一致するが、他動詞の完結相では、一部例外を除いて目的語の数、性、人称に一致する⁵。

6-1 【直接影響・変化】

6-1-a 彼はそのハエを殺した。

त्याने त्या माशीला मारले.

t-yā-ne *t-yā* *māśi-lā* *mār-l-e*.

he-OBL-ERG.SG that-OBL fly-ACC kill-PFV-NSG.

「彼はそのハエを殺した」

ヒンディー語の *mār-nā* と同じく、マラーティー語の *mār-ne* は「殺す」と「叩く」の意味を持つ。他動詞で被動者が有生物である場合、その項は対格 -*lā* で標示される。

6-1-b 彼はその箱を壊した。

त्याने ते खोके तोडले.

t-yā-ne *te* *khoke* *toḍ-l-e*.

he-OBL-ERG.SG that box.N break-PFV-NSG

「彼はその箱 (を) 壊した」

他動詞で被動者が無生物である場合、対格は標示されない。

³ パルデシ (2010) によると、調査対象の 421 個のマラーティー語動詞のうち、形態的に対をなすいわゆる有対動詞は 68 個 (34 ペア) のみであり、残りの 353 個の動詞はペアを持たないいわゆる無対動詞であった (pp.9).

⁴ 主語が1人称や2人称の場合は、他動詞の完結相においても能格後置詞は使われない (例文: 6-3-b).

⁵ 千田 (2023) pp.2 では「目的語に与格がついている場合、動詞は中性を示す」と述べているが、正しくは「直接目的語に対格 -*la* がついている場合、動詞は中性を示す」である。ここに謹んで訂正いたします。

6-1-c 彼はそのスープを温めた.

त्याने सूप गरम केले.

t-yā-ne sup garam ke-l-e.

he-OBL-ERG.SG soup.N warm do-PFV-NSG.

「彼はスープ(を)温めた」

他動詞で被動者が無生物である場合，対格は標示されない。

6-1-d 彼はそのハエを殺したが，死ななかった。(言えるか? 言えないか?)

त्याने त्या माशीला मारले, पण ती मेली नाही.

t-yā-ne t-yā māśi-lā mār-l-e, paṇ ti me-l-i nāhi.

he-OBL-ERG.SG that-OBL fly-ACC kill-PFV-NSG, but that die-PFV-FSG NEG.

「彼はそのハエを殺した，しかし死ななかった」

前述の通り，*mār-ṇe* は「殺す」と「叩く」両方の意味を示す．マラーティー語話者によると，6-1-d の場合，文の後半の文脈から，*mār-ṇe* に「殺意を持って叩いた」というニュアンスが含まれているとのことである．

6-2 【直接影響・無変化】

6-2-a 彼はそのボールを蹴った.

त्याने त्या चेंडूला लाथ मारली.

t-yā-ne t-yā ceṇḍu-lā lāth mār-l-i.

he-OBL-ERG.SG that-OBL ball-DAT kick.F hit-PFV-FSG.

「彼はそのボールにキックした」

6-2-b 彼女は彼の足を蹴った.

तिने त्याच्या पायाला लाथ मारली.

ti-ne t-yā-c-yā pāy-ā-lā lāth mār-l-i.

she-ERG.SG he-OBL-GEN-OBL leg-OBL-DAT kick.F hit-PFV-FSG

「彼女は彼の足にキックした」

「蹴る」のような接触動詞では，被動者が有生物でも無生物でも，その項は与格 *-la* で標示される．

6-2-c 彼はその人にぶつかった (故意に).

त्याने त्या व्यक्तीला (मुद्दाम) धडक दिली.

t-yā-ne t-yā vyakti-lā (muddām) dhaḍak di-l-i.

he-OBL-ERG.SG that-OBL person-DAT (deliberately) hit.F give-PFV-FSG.

「彼はその人に(わざと)一撃を与えた」

6-2-d 彼はその人とぶつかった (うっかり).

तो त्या व्यक्तीला (चुकून) धडकला.

to t-yā vyakti-lā (cukun) dhaḍak-l-ā.

he that-OBL person-DAT (accidentally) hit-PFV-MSG.

「彼はその人に (誤って) ぶつかった」

6-2-c のように故意の動作を表す場合は、他動詞が使われる。主語に能格があらわれ、被動者に与格が付加されている。6-2-d のように非意図的動作を表す場合は、自動詞が使われる。主語は無標であるが、被動者には与格が付加されている。

6-3 【知覚 2A vs. 2B】

6-3-a あそこに人が数人見える。

तिथे काही लोक दिसत आहेत.

tithe kāhi lok disa-t āhe-t.

there some people.M seen-IPFV be.PRS-PL.

「あそこに何人かの人々が見える」

6-3-b 私はその家を見た。

मी ते घर पाहिले.

mi te ghar pāhi-l-e.

I that home.N see-PFV-NSG.

「私はその家 (を) 見た」

6-3-c 誰かが叫んだのが聞こえた。

कोणीतरी ओरडल्याचा आवाज आला.

koṇitari oraḍ-l-ya-c-ā āvāj ā-l-ā.

someone shout-PFV-OBL-GEN-MSG sound.M come-PFV-MSG.

「誰かの叫び声が来た」

6-3-d 彼はその音を聞いた。

त्याने तो आवाज ऐकला.

t-yā-ne to āvāj aik-l-ā.

he-OBL-ERG.SG that sound.M hear-PFV-MSG.

「彼はその音を聞いた」

マラーティー語では、経験者としての主語は与格でマークされる (パルデシ 2010:28). 6-3-a と 6-3-c は「見える」「聞こえる」を示す知覚動詞が使われているが、知覚者が文中で省略されているため、与格主語は見られない。一方、6-3-b と 6-3-d は他動詞で表現されている。主語は1人称の場合は無標 (6-3-b), 3人称の完結相の場合は能格後置詞 *-ne* を伴い (6-3-d), 動詞の数, 性, 人称は目的語に一致している。

6-4 【(知覚 2A) 発見・獲得・生産など】

6-4-a 彼は(なくした) カギを見つけた.

त्याला (हरवलेली) चावी सापडली.

t-yā-lā (harav-lel-i) cāvi sāpad-l-i.

he-OBL-DAT (lost-PST.PTCP-FSG) key.F find-PFV-FSG.

「彼に(なくした) カギ(を) 見つけた」

6-4-b 彼は椅子を作った.

त्याने खुर्ची बनवली.

t-yā-ne khurci banav-l-i.

he-OBL-ERG.SG chair.F make-PFV-FSG.

「彼は椅子を作った」

6-4-a で見られるように，知覚動詞には与格主語が使われる．6-4-b は他動詞構文である．主語に能格が表れ，動詞の数，性，人称は目的語に一致している．

6-5 【追及】

6-5-a 彼はバスを待っている.

तो बसची वाट पाहत आहे.

to bas-c-i vāṭ pāha-t āhe.

he bus-GEN-FSG wait watch-IPFV be.PRS.

「彼はバス(を) 待っている」

6-5-b 私は彼が来るのを待っていた.

मी तो येण्याची वाट पाहत होते.

mi to ye-ṇ-yā-c-i vāṭ pāha-t hote.

I he come-INF-OBL-GEN-FSG wait watch-IPFV be.PST.FSG.

「私は彼が来るの(を) 待っていた」

6-5-c 彼は財布を探している.

तो पाकीट शोधत आहे.

to pākīṭ śodha-t āhe.

he wallet.N search-IPFV be.PRS.

「彼は財布(を) 探している」

マラーティー語では「～を待つ」を示すために 6-5-a 「バスの待っている」，6-5-b 「彼が来るの待っていた」のように名詞か動詞の斜格に属格が付加される．一方，6-5-c 「～を探す」は他動詞構文で表されている．対象物が無生物であるため，その項は無標で示される．

6-6 【知識 1】

6-6-a 彼はいろんなことをよく知っている.

त्याला खूप गोष्टींबद्दल माहिती आहे.

t-yā-lā khup goṣṭi-baddal māhiti āhe.

he-OBL-DAT very thing-about information be.PRS.

「彼にはいろんなことについての情報がある」

6-6-b 私はあの人を知っている.

मी त्याला ओळखते.

mi t-yā-lā oḷakh-t-e.

I he-OBL-ACC recognize-IPFV-NSG.

「私は彼を知っている」

6-6-c 彼はロシア語ができる.

त्याला रशियन भाषा येते.

t-yā-lā raṣiyan bhāṣā ye-t-e.

he-OBL-DAT Russian language.F come-IPFV-FSG.

「彼にロシア語ができる」

6-6-a のような知覚的表現「(情報を) 知っている」には与格主語が使われ、対象には「～について」を意味する後置詞 *-baddal* が付加されている. 6-6-c の COME 動詞を使った可能表現でも与格構文が使用され、対象は無標となる. 一方、6-6-b 「(人) を知っている」は他動詞で表されている. 有生物の対象は対格で標示される.

6-7 【知識 2】

6-7-a あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか?

मी काल काय बोलले ते तुला आठवतंय का?

mi kāl kāy bol-l-e te tu-lā āṭhav-tanya kā?

I yesterday what say-PFV-FSG that you.SG-DAT remember-seems Q?

「私が昨日何を言ったか、君に記憶がありますか？」

6-7-b 私は彼の電話番号を忘れてしまった.

मी त्याचा फोन नंबर विसरले.

mi t-yā-c-ā phon nambar visar-l-e.

I he-OBL-GEN-MSG phone number forget-PFV-FSG.

「私は彼の電話番号を忘れた」

6-7-a 知覚動詞の「(言ったことを) 覚えている」は、知覚者に与格が標示される. 一方、6-7-b 「忘れる」の場合、知覚者は無標で表されている.

6-8 【感情 1】

6-8-a 母は子供たちを深く愛していた.

आईचे आपल्या मुलांवर जिवापाड प्रेम होते.

ai-c-e āp-lya mul-ān-var jivāpāḍ prem hote.

mother-GEN-NSG self-POSS children-OBL-PP a lot love be.PST.

「母の自身の子どもたちを深く愛していた」

6-8-b 私はバナナが好きだ.

मला केळी आवडतात.

ma-lā keḷi āvaḍa-t-āt.

I-DAT banana.F like-IPFV-be.PL

「私にバナナが好きだ」

6-8-c 私はあの人が嫌いだ.

मला ती व्यक्ती आवडत नाही.

ma-lā ti vyakti āvaḍa-t nāhi.

I-DAT that person.F like-IPFV NEG.

「私にあの人が好きではない」

マラーティー語では、好き嫌いを示す感情には与格構文が用いられる(例: 6-8-b, 6-8-c). 一方, 6-8-a 「愛する」は動作の主体に属格が表れ, 対象には後置詞 *-var* ‘after’ が使われている.

6-9 【感情 2】

6-9-a 私は靴が欲しい.

मला बूट हवे आहेत.

ma-lā buṭ have āhe-t.

I-DAT boots want be.PRS-PL.

「私に靴が欲しい」

6-9-b 今, 彼にはお金が要る.

आत्ता त्याला पैशांची गरज आहे.

āttā t-yā-lā paiś-āñ-c-i garaj āhe.

right now he-OBL-DAT money-OBL-GEN-FSG need be.PRS.

「今彼にはお金が必要だ」

「欲しい」や「要る」という表現には、与格構文が使われる。なお、対象は無標、または属格が表れる.

6-10 【感情 3】

6-10-a (私の) 母は (私の) 弟がうそをついたのに怒っている.

(माझा) लहान भाऊ खोटे बोलला म्हणून (माझी) आई रागावली आहे.

(mā-jh-ā) lahān bhāu khoṭe bol-l-ā mhaṇūn (mā-jh-i)

(my-GEN-MSG) young brother.M lie say-PFV-MSG therefore (my-GEN-FSG)

āi rāgāv-l-i āhe.

mother angry-PFV-FSG be.PRS.

「(私の) 弟が嘘をついたため, (私の) 母は怒っている」

6-10-b 彼は犬が怖い.

त्याला कुत्र्यांची भीती वाटते.

t-yā-lā kutr-yāñ-c-i bhiti vāṭ-t-e.

he-OBL-DAT dog-OBL.PL-GEN-FSG afraid feel-IPFV-NSG.

「彼に犬の恐怖を感じる」

6-10-b 「怖い」は与格構文で示されているが, 6-10-a 「怒る」には自動詞が使われ, 知覚者は無標である.

6-11 【関係 1】[状態性の述語]

6-11-a 彼は父親に似ている.

तो त्याच्या वडिलांसारखा दिसतो.

to t-yā-c-yā vaḍil-ān-sārkḥā dis-t-o.

he he-OBL-GEN-OBL father-OBL-like appear-IPFV-MSG.

「彼は彼の父親のように見える」

6-11-b 海水は塩分を含んでいる.

समुद्राच्या पाण्यात मीठ असते.

samudrā-c-yā pā-ṇ-yā-t miṭha as-t-e.

sea-GEN-OBL water-INF-OBL-LOC salt.N be-IPFV-NSG.

「海の水の中に塩がある」

6-11-a 「似ている」を示す際, 主語は無標であり, 対象に「~のよう (だ)」を示す後置詞 *-sārkḥā* 'like' が付加される. 6-11-b 「海水 (の中) に」を示す際は, 「~の中」を示す後置詞 *-t* 'in' が使われ, 対象は無標である.

6-12 【関係 2】

6-12-a 私の弟は医者だ.

माझा लहान भाऊ डॉक्टर आहे.

mā-jh-ā lahān bhāu ḍōkṭar āhe.

my-GEN-MSG young brother.M doctor be.PRS.

「私の弟は医者だ」

6-12-b 私の弟は医者になった.

माझा लहान भाऊ डॉक्टर झाला.

mā-jh-ā lahān bhāu ḍōkṭar jhā-l-ā.

my-GEN-MSG young brother doctor become-PFV-MSG.

「私の弟は医者になった」

マラーティー語も日本語と同様に，6-12-a 名詞述語文と 6-12-b 「なる」文の違いは，使われる動詞の種類で示される．格標識の違いは見られない．

6-13 【能力 1】[動作性名詞の可能表現・可能動詞]

6-13-a 彼は車の運転ができる.

त्याला गाडी चालवता येते.

t-yā-lā gāḍi cālva-tā ye-t-e.

he-OBL-DAT car.F drive-PTCP come-IPFV-NSG.

「彼に車の運転ができる」

6-13-b 彼は泳げる.

त्याला पोहता येते.

t-yā-lā poha-tā ye-t-e.

he-OBL-DAT swim-PTCP come-IPFV-NSG.

「彼に泳ぐことができる」

6-13 において，「できる」を示す可能表現には COME 動詞が使われ，与格構文が用いられている．

6-14 【能力 2】

6-14-a 彼は話をするのが上手だ.

तो बोलण्यात तरबेज आहे.

to bol-ṇ-yā-t tarbej āhe.

he talk-INF-OBL-PP skilled be.PRS.

「彼は話すことの能力がある．」

6-14-b 彼は走るのが苦手だ.

त्याला चांगले धावता येत नाही.

t-yā-lā cāṅgl-e dhāv-tā ye-t nāhi.

he-OBL-DAT good-NSG run-PTCP come-IPFV NEG.

「彼に上手に走ることができない．」

マラーティー語で 6-14-a 「上手だ」を示す際は，形容詞の後にコピュラ *āhe* があらわれる．一方，6-14-b 「苦手だ」を示す際は，可能動詞の否定形が用いられ，与格主語が使われている．

6-15 【移動】

6-15-a 彼は学校に着いた.

तो शाळेत पोचला.

to śāḷe-t poc-l-ā.

he school-LOC reach-PFV-MSG.

「彼は学校に着いた」

6-15-b 彼は道を渡った／横切った.

त्याने रस्ता ओलांडला/पार केला.

t-yā-ne rastā olāṇḍ-l-ā / pār ke-l-ā.

he-OBL.SG road.M cross-PFV-MSG / pass do-PFV-MSG.

「彼は道を渡った／横切った」

6-15-c 彼はこの道を通った.

तो या रस्त्यावरून गेला.

to yā rast-yā-varun ge-l-ā.

he this road-OBL-PP go-PFV-MSG.

「彼はこの道を通った」

マラーティー語では 6-15-a 「～に着いた」を示す際、対象には場所を示す後置詞 *-t* 'at' が使われる。一方、6-15-b 「～を渡った」の対象は無標である。6-15-c 「～を通った」の場合、対象に後置詞 *-varun* 'from above' が使われる。

6-16 【感覚 1】

6-16-a 彼はお腹を空かしている.

त्याला भूक लागली आहे.

t-yā-lā bhuk lāg-l-i āhe.

he-OBL-DAT hunger.F attach.INCP-PFV-FSG be.PRS.

「彼は空腹である」

6-16-b 彼は喉が渇いている.

त्याला तहान लागली आहे.

t-yā-lā tahān lāg-l-i āhe.

he-OBL-DAT thirst.F attach.INCP-PFV-FSG be.PRS.

「彼は喉渇である」

マラーティー語で「お腹が空く」または「喉が渇く」を表現する場合、与格主語で示され、多義動詞である *lāg-ṇe* が使われる。

6-17 【感覚 2】[完全な一項，もしくは 0 項の感覚述語]

6-17-a 私は寒い.

मला थंडी वाजते आहे.

ma-lā thaṇḍī vāj-t-e āhe.

I-DAT cold.F sound-IPFV-FSG be.PRS.

「私に寒さを感じる」

6-17-b 今日は寒い.

आज थंडी आहे.

āj thaṇḍī āhe.

today cold.F be.PRS.

「今日は寒い」

6-17-a 「私は寒い」は知覚動詞であるため，与格主語が使われる．一方，6-17-b 「今日は寒い」は「A は B である」のような構文が使われている．

6-18 【(社会的) 相互行為 1】

6-18-a 私は彼を手伝った／助けた.

मी त्याला मदत केली.

mi t-yā-lā madat ke-l-i.

I he-OBL-DAT help do-PFV-FSG.

「私は彼に手伝った」

6-18-b 私は彼がそれを運ぶのを手伝った.

मी त्याला ते उचलून नेण्यास मदत केली.

mi t-yā-lā te ucl-un ne-ṇ-yā-s madat ke-l-i.

I he-OBL-DAT that pick up-CVB carry-INF-OBL-OBJ help do-PFV-FSG.

「私は彼にそれを運ぶのを手伝った」

「手伝う，助ける」の表現に関しては，受益者に与格が標示される．

6-19 【(社会的) 相互行為 2 (言語行動)】

6-19-a 私はその理由を彼に聞いた.

मी त्याला त्याचं कारण विचारले.

mi t-yā-lā t-yā-c-a kāraṇ vicār-l-e.

I he-OBL-DAT that-OBL-GEN-NSG reason ask-PFV-NSG.

「私は彼にその理由を尋ねた」

6-19-b 私はそのことを彼に話した.

मी त्याला ते सांगितले.

mi t-yā-lā te sāṅgit-l-e.

I he-OBL-DAT that say-PFV-NSG.

「私は彼にそれを話した」

6-19-a 「彼に（から）聞いた」と示す場合、マラーティー語では「彼に尋ねた」という表現が自然となる。6-19-b 「彼に話した」に関しては、日本語と同じように行為の相手に与格が付加される。

6-20 【再帰・相互】

6-20-a 私は彼と会った。

मी त्याला भेटले.

mi t-yā-lā bheṭ-l-e.

I he-OBL-DAT meet-PFV-NSG.

「私は彼に会った」

「会う」という動詞のためには、行為の相手に与格が表れる。

以上、本節ではマラーティー語の他動性について日本語の文と比較しながら考察した。他動性の強い「直接影響」の他動詞は、日本語では「主格-対格」構造で示されるのに対し、マラーティー語は、3人称の完結相の場合のみ主語に能格が表れ、被動者が有生物の場合は直接目的語に対格が標示される⁶。また、他動性の低い「知覚・感情・能力・感覚」を示す動詞に関して、マラーティー語は与格構文が使われやすい。相互行為を示す表現については、受益者や行為の相手に与格が付加されることも観察できた。

7. 「(連用修飾的) 複文」(語研論集 第20号)

連用修飾節は、複文の中でも副詞節と並列節を合わせたものである。マラーティー語は他の印欧語族の言語と同様に定形動詞 (finite verb) を接続詞で繋ぐ構造が多い反面、ドラヴィダ諸語と同様に分詞や不定詞など非定形動詞 (non-finite verb) を用いる場合もある。また、条件節や譲歩節にはインド・アーリア諸語に多くみられる相関関係構文 (relative-correlative construction) も用いられる。

7-1 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。【同時動作】

तो नेहमीच वर्तमानपत्र वाचत जेवतो.

to nehami-c vartmānpatra vāca-t jev-t-o.

he always-EMPH newspaper.N read-IPFV eat-IPFV-MSG.

「彼はいつも新聞を読みながら食事をする」

同一の主語に対して二つの動作が同時に行われる際、動詞は未完結相が続く形をとる。

7-2 (私は) 昨日は九時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。【継起的動作・物語的連鎖】

(मी) काल नऊ वाजता घरी आले, थोडा वेळ टीव्ही पाहिला आणि मग झोपले.

(mi) kāl nau vājtā ghar-i ā-l-e,

(I) yesterday nine o'clock house-PP come-PFV-FSG,

thoḍā veḷ ṭivhi pāhi-l-ā āṇi mag jhop-l-e.

little time TV watch-PFV-MSG and then sleep-PFV-FSG.

「(私は) 昨日 9 時に家に帰り、少しの時間テレビを見て、そして寝た」

⁶ 被動者が無生物の場合は、直接目的語は無標となる。

継続的動作を示す場合，マラーティー語は英語と同じく「V1, V2, and V3」のように接続詞 *āṇi* ‘and’ を使って動詞をつなげる．動詞の数，性，人称は主語または目的語に一致し，過去についての記述の場合は，それぞれの動詞に完結相が表れる．

7-3 (私は) 昨日階段で転んで，ケガをしてしまった．【継起・理由】

(मी) काल जिन्यावरून पडले आणि मला लागलं.

(mi) *kāl jinyā-varun paḍ-l-e āṇi ma-lā lāg-l-a.*

(I) yesterday stairs-from above fall-PFV-FSG and I-DAT attach-PFV-NSG.

「(私は) 昨日階段の上から落ちて，けがをした」

「V1 で，V2 した」のような日本語の副動詞に対して，マラーティー語は V1 と V2 を接続詞 *āṇi* ‘and’ で結ぶ．

7-4 今日父は会社に行って，兄は大学に行った．【異主語】

आज सुद्धा बाबा कामावर गेले आणि दादा कॉलेजला गेला.

āj suddhā bābā kām-ā-var ge-l-e āṇi dādā kōlej-lā

today too father.M work-OBL-PP go-PFV-MPL and brother.M college-DAT

ge-l-ā.

go-PFV-MSG.

「今日父は会社に行った．そして兄は大学へ行った」

異主語を示す文においては 7-2, 7-3 と同様に，接続詞 *āṇi* ‘and’ を用いる．

7-5 (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた．【付帯状況】

(ती व्यक्ती) आज टोपी घालून चालत होती.

(ti vyakti) *āj ṭopi ghāl-un cāla-t hoti.*

(that person.F) today hat.F wear-CVB walk-IPFV be.PST.

「(あの人は) 今日帽子をかぶって歩いていた」

「かぶって歩いた」のような付帯状況について，マラーティー語でも副動詞 (converb) *-un* が使われる．

7-6 (私は) 休みの日にはいつも本を読んだり，テレビを見たりしています．【並行動作】

(मी) सुट्टीच्या दिवशी नेहमी पुस्तक वाचते आणि टीव्ही पाहते.

(mi) *suṭṭi-c-yā divāś-i nehami pustak vāc-t-e āṇi ṭivhi*

(I) holiday-GEN-OBL day-PP always book.N read-IPFV-FSG and TV

pāha-t-e.

watch-IPFV-FSG.

「(私は) 休みの日にいつも本を読み，そしてテレビを見る」

並行動作を示す際は，7-2, 7-3 と同様に，V1 と V2 を接続詞 *āṇi* ‘and’ で結ぶ．日本語の「V1 して V2 した」と「V1 たり V2 たりする」のニュアンスの違いは，マラーティー語では動詞の相以外には見られ

ない.

7-7 時間がないから、急いで行こう. 【理由・カラ】

आपल्याकडे वेळ नाहीये त्यामुळे लवकर निघायला हवं.

āp-lyā-kaḍē veḷ nāhi-ye tyāmuḷe lavakar nighā-y-lā hava.
self-POSS-towards time.M NEG-be.PRS therefore soon leave-L.INF-DAT need.

「私たちには時間がないため、早く出発する必要があります」

7-8 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました. 【理由・ノデ】

माझे काल डोके दुखत होते, म्हणून मी नेहमीपेक्षा लवकर झोपले.

mā-jh-e kāl ḍoke dukha-t hote,
I-GEN-NSG yesterday head.N pain-IPFV be.PST,
mhaṇun mi nehami-pekṣā lavakar jhop-l-e.
therefore I usual-than soon sleep-PFV-FSG.

「昨日頭が痛かったから、私はいつもより早く寝た」

7-7 と 7-8 では、原因・理由を示すために後置詞 *-muḷe* 'due to' と接続詞 *mhaṇun* 'therefore' という表現が使われている。両者は日本語の「から」や「ので」と同様に、交替可能な場面が多い。7-7 と 7-8 においても、*tyāmuḷe* と *mhaṇun* を入れ替えることが可能である。Chida (2022) は、この2つの理由接続詞は「理由の強調度」によって使い分けられると提案している⁷。*mhaṇun* は理由の強調度がより高く、「なぜ」の回答に使われやすい。一方、*-muḷe* を使用する場合は「言い訳感」が減ると観察している。

7-9 あの人は本を買いに行った. 【趣向／移動の目的】

ती व्यक्ती पुस्तक विकत घेण्यासाठी गेली.

ti vyakti pustak vikat ghe-ṇ-yā-sāṭhi ge-l-i.
that person.F book.N buy take-INF-OBL-PP go-PFV-FSG.

「あの人は本を買いに行った」

マラーティー語で移動の目的を示す「買いに行く」を表現する場合、to take を意味する動詞 *ghe-ṇe* に後置詞 *-sāṭhi* 'for' が付加され、「行った」を意味する *ge-l-i* が後続する。

7-10 (彼は) 外がよく見えるように窓を開けた. 【目的・意図】

बाहेरचे नीट दिसावे म्हणून (त्याने) खिडकी उघडली.

bāher-c-e niṭ disā-ve mhaṇun (t-yā-ne) khiḍki ughaḍ-l-i.
outside-GEN-NSG well look-should purpose (he-OBL-ERG.SG) window.F open-PFV-FSG.

「外がよく見えるために (彼は) 窓を開けた」

マラーティー語の理由を示す *mhaṇun* は目的にも使うことができる。使用方法は、日本語の「ために」に似ている。

⁷ Chida (2022) は、日本語とマラーティー語の論理文（条件節、原因・理由節、譲歩条件節、譲歩節）の対照研究をした。

- 7-11 ここでは夏になると，よく雨が降ります。【恒常的条件】

उन्हाळा आला की इथे अनेकदा पाऊस पडतो.

unhālā ā-l-ā ki ithe anekdā pāus paḍ-t-o.

summer.M come-PFV-MSG then here often rain.M fall-IPFV-MSG.

「夏が来ると，ここはよく雨が降る」

恒常的条件を示す日本語の「と」に対して，マラーティー語は従属接続詞 *ki* を使用する．これによって「A が起こると，B が起こる」という恒常的関係を示唆する．

- 7-12 窓を開けると，冷たい風が入って来た。【確定条件・生起】

खिडकी उघडली तर थंड वाऱ्याची झुळूक आली.

khiḍki ughaḍ-l-i tar thaṇḍa vāryā-c-i jhūluk ā-l-i.

window.F open-PFV-FSG COR.then cold wind-GEN-FSG breeze.F come-PFV-FSG.

「窓を開けたら，冷たい風が吹いて来た」

生起を示す確定条件について，マラーティー語では相関接続詞 *jar... tar* ‘if... then’ のうち相関詞の *tar* だけが使われている．

- 7-13 坂を上ると，海が見えた。【確定条件・発見】

चढ चढून गेल्यावर समुद्र दिसला.

caḍha caḍh-un ge-l-yā-var samudra dis-l-ā.

climb.M climbing-CVB go-PFV-OBL-PP sea.M appear-PFV-MSG.

「坂を上っていくと，海が見えた」

後置詞 *-var* ‘after’ も条件関係を示すことができる．Chida (2022) は，前件ですでに起こった事象を示す場合，後置詞 *-var* が使われやすいと指摘している．

- 7-14 明日雨が降ったら，私はそこに行かない。【仮定条件】

उद्या पाऊस पडला तर मी तिकडे येणार नाही.

udyā pāus paḍ-l-ā tar mi tikaḍe ye-ṇār nāhi.

tomorrow rain.M fall-PFV-MSG COR.then I there go-PROSP NEG.

「明日雨が降ったら私はそこに行かないつもりだ」

7-14 は一般的な条件文である．マラーティー語では，仮定条件を示すために相関接続詞 *jar... tar* ‘if... then’ が使われる．関係詞の *jar* は省略可能である．

- 7-15 もっと早く起きればよかったなあ。【反実仮想】

मी अजून लवकर उठले असते तर बरं झालं असतं!

mi ajun lavakar uṭha-l-e as-t-e tar bara jhā-l-a

I more soon get up-PFV-FSG be-IPFV-FSG COR.then good become-PFV-NSG

as-t-a!

be-IPFV-NSG!

「私がもっと早く起きていたら、よかったのに」

7-15 は反事実的条件文である。マラーティー語で反実仮想を示す際、相関接続詞 *jar... tar* 'if... then' が使われ、前件も後件も動詞の完結相の後に助動詞 *as-ṇe* 'to be' の未完結相が表れる。

7-16 あんなところへ行かなければよかった。【反実仮想・前件否定】

मी तिकडे गेले नसते तर बरं झालं असतं!

mi tikaḍe ge-l-e nas-t-e tar bara jhā-l-a as-t-a!

I there go-PFV-FSG NEG-IPFV-FSG COR.then good become-PFV-NSG be-IPFV-NSG!

「私がそこに行かなかったらよかったのに」

7-16 は 7-15 と同様の反事実的条件文である。

7-17 1 に 1 を足せば、2 になる。【一般的真理】

एकामध्ये एक मिळवला तर दोन होतात.

ek-ā-madhye ek miḷva-l-ā tar don hot-āt.

one-OBL-PP one obtain-PFV-MSG COR.then two be.PST-PL.

「1 の中に 1 を得たら 2 になる」

7-17 は、一般的真理を示す条件形式である。この場合、マラーティー語では相関接続詞 *jar... tar* 'if... then' のうち相関詞 *tar* だけが用いられる。

7-18 駅に着いたら電話をしてください。【仮定条件+働きかけのモダリティ】

स्टेशनवर पोहोचल्यावर मला फोन करा.

ṣeṣan-var pohoc-l-yā-var ma-lā phon karā.

station-PP reach-PFV-OBL-PP I-DAT phone do.IMP.PL

「駅に着いたら私に電話してください」

後件に働きかけのモダリティが表れる文では、後置詞 *-var* と相関詞 *tar*、そして従属接続詞 *ki* を使うことができる。Chida (2022) は、7-18 のように前件の事態が起こることが話者にとって明らかな場合、マラーティー語では後置詞 *-var* と従属接続詞 *ki* のみが使えたと指摘している。

7-19 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。【仮定条件+願望】

मला रविवारी सगळ्यांसोबत बागेत जायचंय.

ma-lā ravivāri saḡaḷy-ān-sobat bāge-t jā-y-canya.

I-DAT Sunday everyone-OBL-with park-PP go-DESI-PP.

「私は日曜日にみんなと一緒に公園へ行きたい」

7-19 に関して、日曜日がくることは明白であるため、マラーティー語では条件構文が使われにくい。

7-20 明日雨が降ったら困るなあ。【心配】

उद्या पाऊस पडला तर माझी पंचाईत होईल.

udyā pāus paḍ-l-ā tar mā-jh-i pañcāit ho-il.

tomorrow rain.M fall-PFV-MSG COR.then I-GEN-FSG trouble be.PST-FUT.

「明日雨が降ったら私は困るだろう」

後件に心配などの感情が表れる文，つまり前件の出来事が発生するか話者にとって不明な場合，マラーティー語では仮定条件を示す相関接続詞 *jar... tar* ‘if... then’ で表される。

7-21 家に来るなら，電話をしてから来てください。【時間的前後関係に則していないナラ条件文】

घरी येणार असाल तर यायच्या आधी मला फोन करा.

ghar-i ye-ṇār as-āl tar yāy-c-yā ādhi

house-PP come-PROSP be-FUT COR.then come-GEN-OBL before

ma-lā phōn karā.

I-DAT phone do.IMP.PL

「家に来るつもりなら，来る前に私に電話してください」

ナラ条件文は，相関詞 *tar* を用いて日本語と同じような順で文を作ることができる。

7-22 (もうすぐベルが鳴るので) 鳴ったら，教えてください。【予想を伴った条件文】

(लवकरच घंटा वाजणार आहे.) घंटा वाजली की मला सांगा.

(lavkara-c ghaṇṭā vāj-ṇār āhe.) ghaṇṭā vāj-l-i ki

(soon-EMPH bell.F ring-PROSP be.PRS.) bell.F ring-PFV-FSG then

ma-lā sāṅgā.

I-DAT say.IMP.PL.

「(もうすぐベルが鳴ります) ベルが鳴ったら私に言ってください」

7-18 でも述べたように，前件の事態が起こることが話者にとって明らかな場合，マラーティー語では後置詞 *-var* または従属接続詞 *ki* が使われる。

7-23 (もしかしたらベルが鳴るかもしれないので) もし鳴ったら，教えてください。【予想を伴わない条件文】

(घंटा वाजू शकते.) जर वाजली तर मला सांगा.

(ghaṇṭā vāj-u śak-t-e.) jar vāj-l-i tar ma-lā

(bell.F ring-S.INF can-IPFV-NSG) REL.if ring-PFV-FSG COR.then I-DAT

sāṅgā.

say.IMP.PL

「(ベルが鳴る可能性がある.) もし鳴ったら私に言ってください」

7-20 でも述べたように，前件の事態が起こることが話者にとって不確かな場合，マラーティー語では仮定条件を示す相関接続詞 *jar... tar* ‘if... then’ で表される。

- 7-24 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。【相関構文】
जे काम करत नाहीत त्यांनी खाता कामा नये (खायचा अधिकार नाही).

je kām karat nāhi-t t-yā-ni khā-tā kāmā na-ye
which work do NEG-PL that-OBL-ERG.PL eat-PTCP work NEG-DESI.
(*khā-ya-c-ā adhikār nāhi*).
(eat-OBL-GEN-MSG right NEG).

「誰が仕事をしない、その人は食べることはできない（食べる権利はない）」

7-24 において、マラーティー語では相関構文 *je... te* 'which... that' が使われ、「誰が働かない、その人は食べるべきではない」のように示される。

- 7-25 もう少しお金があったらなあ。【言いさし・願望】

माझ्याकडे अजून थोडे पैसे असते तर ...

mā-jh-yā-kaḍe ajun thoḍe paise as-t-e tar...
my-GEN-OBL-PP more little money.MPL be-IPFV-NSG COR.then...

「私のところにもう少しお金があったら…」

- 7-26 これも食べたら？【言いさし・提案】

हे पण खाल्लं तर?

he paṇ khāl-l-a tar?
this also eat-PFV-NSG COR.then?

「これも食べたら？」

- 7-27 (やりたいなら自分の) 好きなようにやれば？【言いさし・つき放し】

(जर तुला ते करायचे असेल तर) तुला जसं आवडेल तसं केलं तर?

(jar tu-lā te kar-āyc-e as-el tar)
(REL.if you.SG-DAT that do-PRED-NSG be-FUT COR.then)
tu-la jasa āvaḍ-el tasa ke-l-a tar?
you.SG-DAT such like-FUT as do-PFV-NSG COR.then?

「(もし君がこれをやりたいなら) 君が好きなようにしたら？」

7-25～7-27 のような言いさし文では、相関詞の *tar* が使われる。

- 7-28 このコップは落としても割れない。【仮定的な逆接】

हा कप पाडला तरी फुटत नाही.

hā kap pāḍ-l-ā tari phuṭa-t nāhi.
this cup fall-PFV-MSG COR.even then brust-IPFV NEG.

「このコップは落としても割れない」

7-28 のような仮定的な逆接(譲歩条件文)に対し、マラーティー語では譲歩を示す相関接続詞 *jari... tari* 'even though' が使われる。関係詞 *jari* は省略可能である。相関詞 *tari* は日本語の「ても」と同様に汎用性が高く、後件が未実現の出来事でも、事実的な事象でも使用することができる。

- 7-29 このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない。【アクチュアルな逆接】

हे सफरचंद महाग असूनसुद्धा अजिबात गोड नाही.

he sapharacand mahāg as-un-suddhā ajibāt goḍ nāhi.

this apple expensive be-CVB-though at all sweet NEG.

「このリンゴは高いのに全く甘くない」

7-29 のような事実的な譲歩文に対し、マラーティー語では譲歩を示す表現 *as-un-suddhā* や *as-una-hi* が使われる。これらは日本語の「のに」と同様に、期待していた成果が得られなかったというニュアンスを含む。

- 7-30 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった。【逆接3】

मी त्याच्या घरी गेले, पण तो नव्हता.

mi t-yā-c-yā ghar-i ge-l-e, paṇ to navh-tā.

I he-OBL-GEN-OBL house-PP go-PFV-FSG, but he NEG-PST.

「私は彼の家に行った、しかし彼はいなかった」

マラーティー語では、逆接は *paṇ* ‘but’ で示される。

- 7-31 あの人に来るまで、私はここで待っています。【時間的期限1】

ती व्यक्ती येईपर्यंत मी इथेच थांबलेले आहे.

ti vyakti yei-paryant mi ithe-c thāmb-lel-e āhe.

that person.F come.FUT-until I here-EMPH stop-PFV2⁸-FSG be.PRS.

「あの人に来るまで、私はここにいます」

- 7-32 あの人に来るまでに、食事を作っておきますよ。【時間的期限2】

ते येईपर्यंत मी स्वयंपाक करून ठेवते बरं का.

te yei-paryant mi svayampāk kar-un thev-t-e bara kā.

that come.FUT-until I meals do-CVB keep-IPFV-NSG good Q.

「あの人に来るまでに私は料理するけどいいね？」

以上、本節では日本語とマラーティー語の連用修飾的複文について比較した。まず、一文中に複数の動詞が使われる場合、日本語では「～して～して～する」のように副動詞を使用するのに対して、マラーティー語では接続詞 *āṇi* ‘and’ を使って動詞を結ぶ。一方、付帯状況を示す際は、マラーティー語でも副動詞 *-un* が使われる。次に、日本語の「ので・から」と同様に、マラーティー語の理由を示す表現には後置詞 *-muḷe* ‘due to’ や接続詞 *mhaṇun* ‘therefore’ などがある。これらは多くの場面で交替可能であるが、「理由の強調度」によって使い分けることができる。また、*mhaṇun* は目的を示す際にも使うことができる。

条件文について、マラーティー語の条件表現も日本語の「と・たら・なら・ば」のように場面によってふさわしい表現が異なる。一般的な仮定条件には相関接続詞の *jar... tar* ‘if... then’、恒常的条件には従

⁸ 完結相 2 (second perfective) とは、過去完了形 (past perfective) のことである。マラーティー語の完結相 2 は *-lel* で示され、関係節にも用いられる。本稿では、動詞の過去完了を示す *-lel* を完結相 2 (PFV2) とし、関係節に用いられる *-lel* を過去分詞 (past participle) とグロスした。(千田 2023, pp.6)

属接続詞の *ki*, 生起を示す確定条件には相関詞の *tar*, 前件の事象が事実的である場合は *-var*, 前件の事態が起こることが話者にとって明らかな場合は *-var* または *ki*, 一般的心理や言いさし文には *tar* が使われる傾向にある。譲歩文は相関接続詞の *jari... tari* 'even though' や *as-un-suddhā* 'although' によって表される。逆接には *pan* 'but' が使われ、「までに」を示すためには後置詞の *-paryant* 'until' が使われる。

8. 「情報構造と名詞述語文」(語研論集 第21号)

本節では、風間 (2016) のデータを基に、マラーティー語の情報構造と名詞述語文について観察する。

- 8-1 えっ, A (固有名詞) が来たの? / いや, A じゃなくて B が来たんだ. (例えば, 昨日の集まりに珍しくやって来た人についての会話で) 【対比焦点 (主語)】

अरे, आनंद आला!?

are, ānand ā-l-ā!?

VOC, Anand come-PFV-MSG

「おお, アーナンドが来たの?」

नाही, आनंद नाही बबन आला.

nāhi, ānand nāhi baban ā-l-ā.

NEG, Anand NEG Baban come-PFV-MSG.

「いや, アーナンドではなくてババンが来た」

- 8-2 誰が来たの? / A が来たよ. 【WH 焦点 (主語) ・ WH 応答焦点 (主語)】

कोण आलं? / आनंद आला.

koṇ ā-l-a? / ānand ā-l-ā.

who come-PFV-NSG / Anand come-PFV-MSG.

「誰が来た?」 / 「アーナンドが来た」

焦点の文について, マラーティー語は明示的な形式を持たないように見られる。

- 8-3 A のほうが大きいんじゃないの? / いや, A じゃなくて, B のほうが大きいんだよ. 【YesNo 疑問・形容詞述語応答焦点】

आनंद मोठा नाही का?

ānand moṭhā nāhi kā?

Anand big NEG Q?

「アーナンドが大きいんじゃない?」

नाही, आनंद नाही बबन मोठा आहे.

nāhi, ānand nāhī baban moṭhā āhe.

NEG, Anand NEG Baban big be.PRS.

「いや, アーナンドではなくてババンが大きい」

8-3 では使われていないが, 日本語の「～のほうが」と同様に, マラーティー語にも比較を示す後置詞 *-pekṣā* 'more' という表現がある。 *-pekṣā* を使う場合は, 「アーナンドよりババンのほうが大きいんじ

ゃない？」のように，文中に比較対象が必要となる．

8-4 (電話で) どうしたの？／うん，今，お客さんが来たんだ．【文焦点（自動詞文）】

(फोनवर) काय झालं? / अगं, आता आमच्याकडे पाहुणे आलेत.

(phon-var) kāy jhā-l-a?

(phone-PP) what become-PFV-NSG?

「(電話で) どうした？」

aga, āttā ām-c-yā-kaḍe pāhūṇe ā-l-et.

VOC, now we-GEN-OBL-PP guest.M come-PFV-PL

「あのね，いまうちにお客さんが来た」

主語が新情報であることを示す文焦点について，マラーティー語では特に標識は用いられていない．
呼びかけを示す *aga* ‘guys’ は，女性と話す際によく使われ，男性に対しては *are* ‘guys’ が使われる．

8-5 あの子供が A を叩いたんだって!?!／いや，A じゃなくて，B を叩いたんだよ．【対比焦点（目的語）】

त्या मुलानी आनंदला मारलं म्हणे!?

t-yā mulā-ni ānand-lā mār-l-a mhāṇe!?

that-OBL child-ERG.PL Anand-ACC hit-PFV-NSG say!?

「あの子供がアーナンドを叩いたといった!?!」

नाही, आनंदला नाही, त्याने बबनला मारलं.

nāhi, ānand-lā nāhi, t-yā-ne baban-lā mār-l-a.

NEG, Anand-ACC NEG, that-ORG-ERG.SG Baban-ACC hit-PRF-NSG.

「いや，アーナンドじゃない，彼はババンを叩いた」

マラーティー語では，他動詞で被動者が有生物の場合，その項は対格 *-lā* で標示される．焦点のための特別な形式などは見られない．

8-6 赤い袋と青い袋があるけど，どっちを買うの？／（私は）青い袋を買うよ．【対比焦点（目的語，ときに「どっち」という対比的な疑問語の場合）】

लाल आणि निळी पिशवी आहे पण, तू कुठली विकत घेणार?

lāl āṇi ṇīlī piśvī āhe paṇ, tu kuṭhali vikat ghe-ṇār?

red and blue bag.F be.PRS but, you.SG which buy take-PROSP?

「赤と青の袋があるけど，君はどちらを買う？」

मी निळी पिशवी घेणार.

mi ṇīlī piśvī ghe-ṇār.

I blue bag.F take-PROSP.

「私は青い袋を買う」

マラーティー語では、他動詞で被動者が無生物である場合、対格は標示されない。焦点のための特別な形式などは見られない。

- 8-7 A はどこですか？／A は朝からどこかへでかけたよ。（例えば、朝少し遅く起きて来た A の父親が、姿の見えない A について母親に尋ねている場面で）【述語焦点】

आनंद कुठे आहे?

ānand kuṭhe āhe?

Anand where be.PRS?

「アーナンドはどこ？」

आनंद सकाळपासून कुठेतरी गेलाय.

ānand sakāḷ-pāsun kuṭhetari ge-l-ā-y.

Anand morning-from somewhere go-PFV-MSG-be.PRS

「アーナンドは朝からどこかへ行ったよ」

- 8-8 (あの子供は) 誰を叩いたの？／(あの子供は) 自分の弟を叩いたんだ。【WH 焦点 (目的語)・WH 応答焦点 (目的語)】

(त्या मुलाने) कोणाला मारलं?

(t-y-ā mulā-ne) koṇā-lā mār-l-a?

(that-OBL-MSG child-ERG.SG) who-ACC hit-PFV-NSG?

「(その子供は) 誰をたたいた？」

(त्या मुलाने) त्याच्या लहान भावाला मारलं.

(t-y-ā mulā-nē) t-yā-c-yā lahān bhāvā-lā mār-l-a.

(that-OBL-MSG child-ERG.SG) that-OBL-GEN-OBL small brother-ACC hit-PFV-NSG

「(その子どもは) 自分の弟を叩いた」

WH 応答文については、8-8 にあるように主語は出現してもしなくてもよい。ただし、マラーティー語話者に確認したところ、会話の流れとしては主語があったほうが自然とのことである。

- 8-9 (電話で) どうしたの？／うん、A が (自分の) 弟を叩いたんだ。（例えば、電話の向こうで子供の泣き声が起きたのを聞いての発話）【文焦点 (他動詞文)】

(फोनवर) काय झालं रे?

*(phon-var) kāy jhā-l-a re?*⁹

(phone-PP) what become-PFV-NSG VOC?

「(電話で) どうした？」

⁹ マラーティー語の伝達態度を示す *re* は、男性と話す際によく使われ、女性に対しては *ga* が使われる。

अरे, आनंदनी त्याच्या लहान भावाला मारलं

are, ānand-ni t-yā-c-yā lahān bhāvā-lā mār-l-a

VOC, Anand-ERG.PL he-OBL-GEN-OBL small brother-ACC hit-PFV-NSG.

「あのね，アーナンドが彼の（自分の）弟を叩いた」

- 8-10 あのケーキ，どうした？／（ああ，あれは）A が食べちゃったよ．【目的語主題化，主題（目的語）の継続性 いわゆる Pro-Drop 言語の可能性】

त्या केकचं काय झालं?

t-yā kek-c-a kāy jhā-l-a?

that-OBL cake-GEN-NSG what become-PFV-NSG?

「あのケーキの，どうした？」

(अरेच्चा, तो) आनंदनी खाऊन टाकला.

(arē-ccā, to) ānand-ni khā-un tāk-l-ā.

(oh-EMPH that) Anand-ERG.PL eat-CVB drop-PFV-MSG.

「(おお，それは) アーナンドが平らげた」

8-10 の応答文で，主題化した目的語が代名詞 *to* ‘that’ として現れている．

- 8-11 私が昨日お店から買ってきたのはこの本だ．【分裂文】

मी काल दुकानातून विकत घेतले ते हे पुस्तक आहे.

mi kāl dukānā-tun vikat ghet-l-e te he pustak āhe.

I yesterday shop-PP buy take-PFV-NSG that this book.N be.PRS.

「私が昨日店から買ったあれはこの本だ」

8-11 の分裂文において，文中の *te* ‘that’ が「私が昨日店から買った」という修飾を受けつつ，主節の主語の機能も担っている．

- 8-12 あの人は先生だ．この学校でもう 20 年働いている．【措定文 主題（名詞述語文の主語）の継続性 いわゆる Pro-Drop 言語の可能性】

ती व्यक्ती शिक्षक आहे.

ti vyakti śikṣaka āhe.

that person.F teacher.N be.PRS.

「あの人は先生だ」

ती वीस वर्षांपासून या शाळेत काम करत आहे.

ti vis varṣā-pāsun yā śāle-t kām kara-t āhe.

that twenty year-from this school-PP work do-IPFV be.PRS.

「あの方は 20 年前からこの学校で働いている」

- 8-13 彼のお父さんは、あの人だ。【倒置同定文】
त्याचे वडील ते आहेत.
t-yā-c-e *vaḍil* *te* *āhe-t.*
he-OBL-GEN-NSG father.N he.PL be.PRS-PL.
「彼のお父さんはあの方です」

- 8-14 あの人が彼のお父さんだ。【同定文】
ते त्याचे वडील आहेत.
te *t-yā-c-e* *vaḍil* *āhe-t.*
he.PL he-OBL-GEN-NSG father.N be.PRS-PL.
「あの方が彼のお父さんです」

マラーティー語では、措定文と同定文においてコピュラの違いは見られない。

- 8-15 あさってっていうのはね、明日の次の日のことだよ。【定義文】
“परवा” म्हणजे उद्यानंतरचा दिवस.
“*parvā*” *mhaṇje* *udyā-nantar-c-ā* *divas.*
“day after tomorrow” means tomorrow-after-GEN-MSG day.
「明後日というのは明日の次の日だ」

8-15 ではコピュラ *āhe* が使用されていないが、一般的にマラーティー語で定義文を示す場合はコピュラ *āhe* が表れる。

- 8-16 (何人かで入った喫茶店で注文を聞かれて) 私はコーヒーだ。【ウナギ文】
मी कॉफी घेईन.
mi *kōphi* *ghe-in.*
I coffee get-FUT.
「私はコーヒーをもらいます」

マラーティー語では、ウナギ文らしいウナギ文は許されないため、動詞を使って文を補う必要がある。

- 8-17 [(注文した数人分のお茶が運ばれてきて) どなたがコーヒーですか? との問いに] コーヒーは私だ。【逆行ウナギ文】
मी कॉफी सांगितली आहे.
mi *kōphi* *sāṅgit-l-i* *āhe.*
I coffee say-PFV-FSG be.PRS.
「私がコーヒーと言いました」

कॉफी माझी आहे.
kōphi *mā-jh-i* *āhe.*
coffee I-GEN-FSG be.PRS.
「コーヒーは私のだ」

マラーティー語では、逆ウナギ文も許されない。

8-18 その新しくて厚い本は(値段が)高い。【形容詞述語文 修飾・並列・述語】

ते नवीन आणि जाड पुस्तक महाग आहे.

te navin āṇi jād pustak mahāg āhe.

that new and thick book.N expensive be.PRS.

「その新しくて厚い本は高価だ」

マラーティー語の形容詞述語文は一括修飾型、前置修飾、後置のコピュラによる述語化にあたる。

8-19 (砂糖入れを開けて) あっ、砂糖が無くなっているよ！【意外性 (mirativity)】

अरे, साखर संपलीय!

are, sākhar samp-l-i-ya!

VOC, suger.F finish-PFV-FSG-be!

「おお、砂糖が終わった！」

8-20 午後、誰かに会うはずだったなあ。誰だったっけ？ あっ、そうだ、～君だったな。【思い出し】

दुपारी कोणाला तरी भेटायचे होते. कोणाला बरं?

dupār-i koṇā-lā tari bheṭ-āyc-e hote. koṇā-lā bara?

afternoon-PP who-DAT though meet-PRED-NSG be.PST. who-DAT good?

「午後、誰かに会いたかった。誰だったっけ？」

अरे, हो, आठवलं, आनंदला नाही का.

are, ho, āṭhav-l-a, ānand-lā nāhi kā.

VOC, oh, remember-PFV-NSG Anand-DAT NEG Q.

「おお、思い出した、アーナンドじゃないか」

以上、本節ではマラーティー語の情報構造と名詞述語文について考察した。文焦点について、本特集の例文では、マラーティー語は明示的な形式を持たなかった。また、措定文や同定文の間に、コピュラの違いは見られない。マラーティー語はウナギ文や逆ウナギ文を許容しないため、発話内容に応じて文を補う必要がある。最後に、意外性や思い出しの表現に関しては、いずれも完結相が用いられている。

9. 「情報標示の諸要素」(語研論集 第22号)

本節は、8節「情報構造と名詞述語文」に内容的に連続するものである。

9-1 この土地は野菜がよく育つ。だから高い値段で売れるだろう。【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】

या जमिनीत भाजीपाला चांगला पिकतो.

yā jamini-t bhājipālā cāṅgl-ā pik-t-o.

this ground-PP vegetables good-MSG grow-IPFV-MSG.

त्यामुळे तो जास्त किमतीला विकला जाईल असं वाटतं.

tyāmuḷe to jāsta kimati-lā vika-l-ā jā-il asa vāṭa-t-a.

therefore that more price-DAT sell-PFV-MSG go-FUT like think-IPFV-NSG.

「この土地に野菜がよく育つ。だからこれはより高値で売れると思う」

- 9-2 私は頭が痛い。だから今日は休む。【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外，統語的軸項としての機能】

माझं डोकं दुखतंय म्हणून मी आज सुटी घेत आहे.

mā-jh-a ḍoka dukhtaye mhaṇun mi āj suṭī ghe-t āhe.

I-GEN-NSG head paining therefore I today holiday take-IPFV be.

「私の頭は痛いようだ。そのため、私は今日休暇を取る」

9-1 も 9-2 も，マラーティー語の原因・理由を示す後置詞 *-muḷe* や接続詞 *mhaṇun* を用いている。9-1 では1文目で「土地」が場所格で表され，2文目で代名詞 *to* 'that' が主語として明示されている。9-2 においては，前件で「私の頭が痛い」という表現を使っており，主節では「私」が主語として置かれている。

- 9-3 あの人**だけ**，時間通りに来た。【限定】

फक्त तो वेळेवर आला.

phakta to veḷe-var ā-l-ā.

only he time-PP come-PFV-MSG.

「彼だけ時間通りに来た」

- 9-4 これはここ**でしか**買えない。【限定・否定との共起】

हे फक्त इथे खरेदी करू शकतो.

he phakta ithe kharedi karu śak-t-o.

this only here purchase do.INCP can-IPFV-MSG.

「これはここ**だけ**購入できる」

- 9-5 その家にいたのは子供**ばかり**だった。【限定・多数】

घरात फक्त मुलं होती.

gharā-t phakta mula hoti.

house-PP only children be.PST.

「家の中に子どもたち**だけ**いた」

マラーティー語では，限定を示す「だけ」，「しか」，「ばかり」を単一表現 *phakta* 'only' で表す。

- 9-6 次回**こそ**，失敗ないようにしよう。【限定・強調】

पुढच्या वेळेस मात्र चूक होणार नाही असं बघूया.

puḍh-c-yā veḷe-s mātra cuka ho-ṇār nāhi asa baghu-yā.

next-GEN-OBL time-PP but mistake be.PST-PROSP NEG like see.INCP-let

「次の時**こそ**失敗にならないようにしよう」

限定・強調を意味する「こそ」に対して，マラーティー語では *mātra* ‘but’ を使って強調を示している。

- 9-7 疲れたね，お茶でも飲もう。【反限定・例示】

दमलो ना! चहा तरी पिऊया.

dam-l-o nā! cahā tari piu-yā.

exhausted-PFV-MSG EMPH! tea COR.even then drink.INCP-let

「疲れたね！ お茶でも飲もう」

- 9-8 水さえあれば，数日間は大丈夫だ。【極端・意外】

फक्त पाणी जरी असलं तरी काही दिवस काढू शकू.

phakta pāṇi jari as-l-a tari kāhi divas kāḍhu śak-u.

only water REL.even if be-PFV-3NSG COR.even then some days remove can

「ただ水でもあれば，何日か生きられる」

「反限定」と「極端」を示す「でも」「さえ」に対し，マラーティー語では譲歩表現の *jari... tari* ‘even if... then’ を使って示すことができる。

- 9-9 小さい子供まで，その仕事の手伝いをさせられた。【極端・意外】

लहान मुलांनादेखील या कामात मदत करायला लावली गेली.

lahān mulān-nā-dekhiḷ yā kāmā-t madat kar-āy-lā lā-va-l-i

small child.OBL-DAT-PP that work-PP help do-L.INF-DAT put-CAUS-PFV-FSG

ge-l-i

GO-PFV-FSG.

「小さい子どももあの仕事の手伝いをさせられた」

意外を示す「まで」に対し，マラーティー語では *also* を意味する後置詞の *-dekhiḷ* が使われる。

- 9-10 私はお金なんか欲しくない。【反極端・低評価】

मला पैसे बिसे नको आहेत.

ma-lā paise bise nako āhe-t.

I-DAT money.MPL REDUP NEG be.PRS-PL.

「私にお金なんて欲しくない」

- 9-11 自分の部屋ぐらい，自分できれいにしなさい。【反極端・最低限】

स्वतःची खोली तरी स्वतः स्वच्छ कर.

svataḥ-c-i kholi tari svataḥ svaccha kar.

self-GEN-FSG room.F COR.even.then self clean do.IMP.SG.

「自分の部屋でも自分で掃除しなさい」

反極端・低評価を示す「なんか」に対し，マラーティー語では ‘*paise-bise*’ のように重複語で表現される。一方，反極端・最低限を示す「ぐらい」に対して，マラーティー語では *even... then* を示す *tari* で表現される。

- 9-12 私にもちょうだい. 【類似・累加】

मला पण द्या.

ma-lā paṇ d-ya.

I-DAT but give-IMP.PL

「私にもください」

累加を示す「も」に対応するマラーティー語表現はいくつかあるが、「私にもほしい」というような言い方としては *paṇ* 'but' が使われる.

- 9-13 お父さんもう帰って来たね. お母さんは? 【反類似・対比 (疑問)】

तुझे बाबा परत आले ना. आणि आई?

tu-jh-e bābā parat ā-l-e nā. āṇi āi?

you.SG-GEN-MPL father.M again come-PFV-MPL ASSR. and mother?

「君の父はまた帰ってきたね. あとお母さんは?」

反類似・対比の「は」については, and を示す *āṇi* が使われる.

- 9-14 誰か (が) 電話してきたよ. 【特定未知 (specific unknown)】

कोणाचातरी फोन येऊन गेला.

koṇā-cā-tari phon ye-un ge-l-ā.

who-GEN-some phone come-CVB go-PFV-MSG.

「誰かの電話が来た」

- 9-15 誰かに聞いてみよう. 【非現実不特定 (irrealis non-specific)】

कोणालातरी विचारून बघूया.

koṇā-lā-tari vicār-un baghu-yā.

who-DAT-some ask-CVB see.INCP-let

「誰かに聞いてみよう」

- 9-16 私のいない間に誰か来た? 【疑問 (question)】

मी नसताना कोणी आले होते का?

mi nastānā koṇi ā-l-e hote kā?

I without someone come-PFV-NSG be.PST Q?

「私抜きで誰か来ましたか?」

- 9-17 誰か来たら, 私に教えてください. 【条件節内 (conditional)】

कोणी आले तर मला सांगा.

koṇi ā-l-e tar ma-lā sāṅgā.

someone come-PFV-NSG COR.then I-DAT say.IMP.

「誰かが来たら, 私に教えてください」

- 9-18 今日は**誰も**来るとは思わない。／今日は**誰も**来ないと思う。【間接(全部)否定(indirect negation)】
आज **कोणी** येईल असे वाटत नाही. / आज **कोणीच** येणार नाही असे वाटते.

āj koṇi yei-l ase vāṭa-t nāhi.

today someone come-FUT like feel-IPFV NEG.

「今日は誰か来るように思えない」

āj koṇi-c ye-ṇār nāhi ase vāṭa-t-e.

today someone-EMPH come-PROSP NEG like feel-IMPF-FSG

「今日は誰も来ないと思う」

- 9-19 そこには今**誰も**いないよ。【直接(全部)否定(direct negation)】
आता तिथे **कोणीच** नाही.

ātā tithe koṇi-c nāhi.

now there someone-EMPH NEG.

「今そこに誰もいない」

- 9-20 (それは) **誰でも**できる。【自由選択(free-choice)】
(ते) **कोणीही** करू शकते.

(te) koṇi-hi kar-u śak-t-e.

(that) someone-also do-S.INF can-IPFV-FSG.

「(それは) **誰でも**できる」

マラーティー語では、9-14 と 9-15 は類似した形式 *koṇā... tari* ‘someone’, 9-16 と 9-17 が同形の *koṇi* ‘someone’, そして 9-18 と 9-19 が同形の *koṇi-c* ‘nobody’, 最後に 9-20 は *koṇi-hi* ‘anyone’ の形をとる.

- 9-21 そんなこと (は), **みんな**知っているんじゃないか!? 【自由選択を示す「みんな」】
ती गोष्ट **सगळ्यांनाच** माहीत आहे ना!?

tī goṣṭ saḡlyān-nā-c māhit āhe nā!?

this story everyone-DAT.PL-EMPH know be.PRS ASSR!?

「そんなことはみんな知っているよね!」

マラーティー語で自由選択を示す「みんな」は *every~* 形式で表現される.

- 9-22 そんなもの, **誰が**買うんだよ!? **誰も**買うわけじゃないか! 【反語】
अशी वस्तू **कोण** विकत घेईल!? कोणी विकत घेणार नाही!

aśī vastu koṇ vikat ghe-il!? koṇi vikat ghe-ṇār nāhi!

such thing who buy take-FUT!? someone buy take-PROSP NEG!

「そんなもの誰が買うだろうか!? **誰も**買わないだろう!」

- 9-23 君は英語がうまいね。【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

तुझं इंग्रजी छान आहे की गं.

tu-jh-a ingraji chān āhe ki ga.

you.SG-GEN-N English good be.PRS then VOC.

「君は英語がうまいな」

- 9-24 君は退屈そうだね。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

तुला कंटाळा आलाय वाटतं.

tu-lā kaṇṭālā ā-l-āy vāṭa-t.

you.SG-DAT boring come-PFV-L.INF feel-IPFV.

「君に退屈が来たと感じる」

- 9-25 明日も寒いらしいよ。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

उद्याही थंडी पडेल असं वाटतंय हं.

udyā-hi thaṇḍī paḍ-el asa vāṭa-taye ha.

tomorrow-also cold fall-FUT like feel-seems ASSR.

「明日も寒いと思うよ」

9-23 から 9-25 を観察すると、9-24 の【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】以外ではマラーティー語でも文末に主張を示唆する *Assertion* や呼格が使われている。

以上、前節に引き続き、マラーティー語の情報構造について日本語文との対照して観察した。マラーティー語のとりたて表現について、限定を示す「だけ」、「しか」、「ばかり」に対し、マラーティー語では単一表現 *phakta* 'only' を使用する。一方、「こそ」に対しては *mātra* 'but' を使って強調を示す。「でも」や「さえ」は、譲歩表現の *jari... tari* 'even if... then' で示すことができる。意外を示す「まで」には後置詞の *-dekhil* 'also' が使われる。反極端・低評価を示す「なんか」には重複語（例：*paise-bise*）が使われ、反極端・最低限の「ぐらい」は *even... then* を意味する *tari* で表現される。累加の「も」は *pan* 'but'，反類似・対比の「は」には *and* を意味する *āṇi* が使われる。不定代名詞について、特定未知や非現実不特定に対する表現は類似した表現 (*koṇā... tari* 'someone')，疑問や条件節内、間接否定では同一表現 *koṇi* 'someone'，そして強調が付加される直接否定では *koṇi-c* 'nobody'，自由選択では *koṇi-hi* 'anyone' が使われる。最後に、日本語の終助詞的表現に対して、場面によってマラーティー語でも *assertion* や呼格で示される。

10. 「否定、形容詞と連体修飾複文」（語研論集 第 23 号）

本節では、風間 (2018) のデータを基に、マラーティー語の否定、形容詞と連体修飾複文について観察する。

[否定と形容詞]

マラーティー語の否定文は以下のいずれかの方法で表される：(a) 否定辞 *nā* または *nāhi* を用いる方法，(b) 否定動詞，例えば (i) *nāhi* 'does not exist'，(ii) 禁止を意味する *nako* 'do not do X'，*naye* 'should not do X'，(iii) 関係性を否定する動詞 *navhe* 'X is not Y' を用いる方法 (Pandharipande 1997: 182)。

Dhongde and Wali (2009) によると，マラーティー語の否定文は定形節か非定形節かによって構造が異なる．定形節では，否定動詞 *nāhi* または助動詞 *āhe* が文末に現れる．疑問文では，疑問辞 *kā* は否定辞 *nāhi* に後続する．基本的に否定動詞のスコープは文全体にかかる．一方，非定形節においては，否定辞 *na* が非定形動詞の前に現れる (pp.250).

- 10-1 これは私の本ではない．【名詞述語文／コピュラ文の否定】

हे माझे पुस्तक नाही.

he mā-jh-e pustak nāhi.

this I-GEN-NSG book.N NEG.

「これは私の本じゃない」

- 10-2 この部屋には椅子がない．【存在文の否定】

या खोलीत खुर्चा नाहीत.

yā kholi-t khurc-yā nāhi-t.

this room-PP chair-F.PL NEG-PL.

「この部屋に椅子がない」

- 10-3 この部屋には一つも椅子がない．【全部否定・モノ】

या खोलीत एकही खुर्ची नाही.

yā kholi-t ek-a-hi khurci nāhi.

this room-PP one-OBL-EMPH chair.F NEG.

「この部屋に一つも椅子がない」

- 10-4 その部屋には誰もいない．【全部否定・ヒト】

त्या खोलीत कोणीच नाही आहे.

tyā kholi-t koṇi-c nāhi āhe.

that.F room-PP someone-EMPH NEG be.PRS.

「その部屋に誰もいない」

- 10-5 その本はこの部屋にない．【所在文の否定】

ते पुस्तक या खोलीत नाही आहे.

te pustak yā kholi-t nāhi āhe.

that.N book.N this room-PP NEG be.PRS.

「その本はこの部屋の中にない」

10-1 はコピュラ文の否定，そして 10-2 から 10-5 は存在動詞の否定である．いずれも文の否定であるため，否定動詞 *nāhi* または助動詞 *āhe* が文末に現れている．

- 10-6 この犬は大きくない。【形容詞文の否定】

हा कुत्रा मोठा नाही.

hā kutrā moṭhā nāhi

this dog.M big NEG.

「この犬は大きくない」

- 10-7 この犬はあまり大きくない。【形容詞文の部分否定】

हा कुत्रा फार मोठा नाही.

hā kutrā phār moṭhā nāhi.

this dog.M much big NEG.

「この犬はあまり大きくない」

10-7 のような部分否定について、文構造は 10-6 と違いはないが、形容詞の手前に「あまり」を意味する *phār* 'much' が使われている。

- 10-8 この犬はあの犬より大きい。【比較級】

हा कुत्रा त्या कुत्र्यापेक्षा मोठा आहे.

hā kutrā tyā kutr-yā-peṣā moṭhā āhe.

this dog.M that dog-OBL-PP big be.PRS.

「この犬はあの犬より大きい」

- 10-9 この犬がその犬たちの中で一番大きい。【最上級】

हा कुत्रा त्या कुत्र्यांमध्ये सर्वात मोठा आहे.

hā kutrā tyā kutr-yā-madhye sarvāt mōṭhā āhe.

this dog.M that dog-OBL-PP most big be.PRS.

「この犬があの犬の中で一番大きい」

比較を示す際、比較対象となる名詞の後に後置詞 *-peṣā* 'more' が付加され、形容詞が後続する。最大級を示す場合は、「N の中で最も Adj である」という構文をとる。

- 10-10 今日はあの人は来ない。【自動詞文の否定】

ती व्यक्ती आज येणार नाही.

ti vyakti āj ye-ṇār nāhi.

that person.F today come-PROSP NEG.

「あの人は今日来ない」

- 10-11 あの人はその本を持って行かなかった。【他動詞文の否定】

ती व्यक्ती ते पुस्तक घेऊन गेली नाही.

ti vyakti te pustak ghe-un ge-l-i nāhi.

that person.F that book.N take-CVB go-PFV-FSG NEG.

「あの人はあの本を持って行かなかった」

10-10, 10-11 は、動詞の否定文である。マラーティー語の場合、自動詞・他動詞の区別なくどちらも文末に否定辞が表れる。

- 10-12 全ての学生が参加しなかった。／学生は全員参加しなかった。【数量の全部否定】

सर्व विद्यार्थी सहभागी झाले नव्हते.

sarva vidyārthi sahabhāgi jhā-l-e navh-te.

all student.M participant become-PFV-NSG NEG-PST.

「全ての学生が参加者とならなかった」

- 10-13 全ての学生が参加したわけではない。【数量の部分否定】

सर्व विद्यार्थी सहभागी झाले होते असे नाही.

sarva vidyārthi sahabhāgi jhā-l-e hote ase nāhi.

all student.M participant become-PFV-NSG be.PST like NEG.

「全ての学生が参加者となったわけではない」

10-12, 10-13 はそれぞれ数量の全部否定と部分否定である。マラーティー語は「全ての学生が参加した」の文の後に否定辞を付加することで全部否定となる。一方、部分否定に関しては、日本語で言う「わけではない」を示すために *ase nāhi* ‘not like that’ が文末に使われている。

- 10-14 (私は買わなかった。しかし、決して) 値段が高いというわけではない。【文の否定】

(मी ते विकत घेतले नाही, परंतु याचा अर्थ) ते महाग आहे असं नाही.

(mi te vikat ghet-l-e nāhi, parantu yā-cā artha)

(I that buy take-PFV-NSG NEG, but this-GEN mean)

te mahāg āhe asa nāhi.

that expensive be.PRS like NEG.

「(私はあれを買わなかった、しかしその意味は) それが高いというわけではない」

10-14 のような否定文についても、10-13 と同様の構文を取る。

- 10-15 走るな！【禁止】

पळू नका!

paḷ-u nakā!

run-NON.FIN NEG.IMP.PL

「走らないでください！」

- 10-16 大きな声を出すな！【他動詞文の禁止】

आवाज वाढवू नका!

āvāj vāḍhav-u nakā!

sound.M increase-NON.FIN NEG.IMP.PL

「声を荒げないでください！」

10-15 と 10-16 にあるように、禁止を示す場合、非定形動詞の後に命令を含む否定辞 *nakā* が後続して

いる。禁止表現には複数形 *nakā* と単数形 *nako* があり、前者は敬意をこめた表現である。

10-17 明日は雨は降らないだろう。【推量の否定】

उद्या कदाचित पाऊस पडणार नाही.

udyā kadācit pāus paḍ-ṇār nāhi.

tomorrow may be rain.M fall-PROSP NEG.

「明日はたぶん雨が降らないだろう」

推量の否定は、動詞の前望相に否定辞が後続する。

10-18 あの人に聞こえないように、小さな声で話してくれ。【目的節の否定】

हळू आवाजात बोला जेणेकरून त्या व्यक्तीला ऐकू जाणार नाही.

haḷu āvājā-t bōl-ā jēṇēkarūn tyā vyakti-lā

slowly sound-PP speak-IMP.PL so that that person-DAT

aik-u jā-ṇar nāhi.

listen-NON.FIN go-PROSP NEG

「小さい声で話してください。そしたらあの人に聞こえないです」

10-19 私はあなたを怒らせようと思ってそう言ったんじゃない。【否定のスコープの調節】

तुला राग यावा या हेतूने मी हे बोलले नाही.

tu-lā rāg yā-vā yā hetu-nē mi he bol-l-e nāhi.

you.SG-DAT angry come-should this intention I this speak-PFV-NSG NEG.

「君を怒らせるために私はこれを言ったのではない」

目的節の否定を示す複文 10-18 について、接続詞には *jēṇēkarūn* ‘so that’ が使われ、否定辞が文末に現れる。10-19 では、文中の *he* ‘this’ が、前件の「君を怒らせるために」を受けてスコープの調節をしていると考えられる。

[連体修飾構造]

マラーティー語の名詞修飾表現については、パルデシ (2020) が詳しく論じている。マラーティー語の連体修飾構造は、現在分詞を含む構造、過去分詞を含む構造、そして相関構文の3タイプに加え、不定詞+属格+性・数の形式をとる名詞補文節がある。

10-20 私が昨日買った本はどこ（にある）？【内の関係の連体修飾節・目的語】

मी काल विकत घेतलेले पुस्तक कुठे आहे?

mi kāl vikat ghēt-lel-e pustak kuṭhe āhe?

I yesterday buy take-PST.PTCP-NSG book.N where be?

「私が昨日買った本はどこですか？」

- 10-21 その本を持って来た人は誰(か)? 【内の関係の連体修飾節・主語】

ते पुस्तक कोणी आणले?

te pustak koṇi āṇ-l-e?

that book.N who bring-PFV-NSG.

「その本は誰が持ってきた?」

- 10-22 この部屋が私たちの仕事をしている部屋です。【内の関係の連体修飾節・場所】

ही आम्ही काम करतो ती खोली.

hi āmhi kām kar-t-o ti kholi.

this we.excl work do-IPFV-PL that room.F.

「これは私たちが仕事をするあの部屋です」

- 10-23 足が一本折れたあの椅子はもう捨ててしまった。【内の関係の連体修飾節・所有者】

एक पाय तुटलेली ती खुर्ची मी फेकून दिली आहे.

ek pāya tuṭ-le-l-i ti khurci mi phék-un di-l-i āhe.

one leg break-PST.PTCP-FSG that chair.F I throw-CVB give-PFV-FSG be.PRS.

「足が壊れた椅子は捨てました」

10-20 から 10-23 は、いわゆる内の関係を示す文である。10-20 と 10-23 は、過去分詞を用いた名詞修飾表現である。10-21 は、日本語文をパラフレイズしたものとなっているが、過去分詞を用いた修飾表現も可能である。10-22 では、指示詞 *ti* ‘that’ が日本語の「あの」のような役割を担い、前の文「私たちが仕事をしている」を受けている。

- 10-24 ドアを叩いている音が聞こえる。【外の関係の連体修飾節】

मला दार ठोठावल्याचा आवाज येतो आहे.

ma-lā dār ṭhoṭhāva-l-yā-cā āvāj yē-t-o āhe.

I-DAT door.N knock-PFV-OBL-GEN sound.M come-IPFV-MSG be.PRS.

「私にドアを叩く音が来ている」

- 10-25 あの人が結婚したという噂は本当(か)? 【外の関係の連体修飾節】

त्या व्यक्तीने लग्न केले ही अफवा खरी आहे का?

tyā vyakti-ne lagna ke-l-e hi aphavā khari āhe kā?

that person-ERG.SG marriage do-PFV-NSG this rumor true be.PRS Q?

「あの人が結婚したこの噂は本当ですか?」

外の関係を表す場合、10-24 のように動作に属格後置詞をとる不定詞構造によって表される。また、10-25 では、指示詞 *hi* ‘this’ が日本語の「この」のような役割を担い、前の文「あの人が結婚した」を受けている。

- 10-26 私はその人が来た時にご飯を食べていた。【時間節】

ती व्यक्ती आली तेव्हा मी जेवत होते.

ti vyakti ā-l-i tevhā mi jeva-t hote.

that person.F come-PFV-FSG COR.then I eat-IPFV be.PST.

「その人が来た時私は食事中だった」

- 10-27 私はその人が待っている所に行った。【場所節】

ती व्यक्ती थांबली होती तिथे मी गेले.

ti vyakti thāmba-l-i hoti tithe mi ge-l-e.

that person.F stop-PFV-FSG be.PST COR.there I go-PFV-NSG.

「その人が待っているところに私は行った」

10-26 の時間節は相関接続詞 *jevhā... tevhā* ‘when... then’ の相関詞 *tevhā* が使われ、10-27 の場所節は相関接続詞 *jithe... tithe* ‘where... there’ の相関詞 *tithe* を用いて表現されている。

- 10-28 私はその人が走っていったのを見た。【補文節・視覚】

मी त्या व्यक्तीला पळताना पाहिले.

mi tyā vyakti-lā paḷa-tānā pāhi-l-e.

I that person-DAT run-while see-PFV-NSG.

「私はあの人が走っているのを見た」

- 10-29 昨日の夜、私は彼らがしゃべっているのを聞いた。【補文節・聴覚】

काल रात्री मी त्यांना बोलत असताना ऐकले.

kāl rātri mi tyā-n-nā bola-t as-tānā aik-l-e.

yesterday night I they-OBL-ERG.PL talk-IPFV be-while listen-PFV-NSG.

「昨夜私は彼らが話しているのを聞いた」

10-28 と 10-29 について、動作主の前で動作が進行していることを示すために、動詞の語幹に後置詞 *-tānā* ‘while’ が付加されている。

- 10-30 私はその人が昨日ここに来たことを知っている。【補文節・知識】

मला माहित आहे की ती व्यक्ती काल इथे आली होती.

ma-lā māhi-t āhe ki ti vyakti kāl ithe ā-l-i

I-DAT know-IPFV be.PRS COMP that person.F yesterday here come-PFV-FSG

hoti.

be.PST

「私は知っている。あの人が昨日ここに来たことを」

10-30 では、補文標識 *ki* ‘that’ を用いて文をつなげている。

10-31 (昨日)彼は彼が今日ここに来たと言った。／(昨日)彼は、「私は今日ここに来た」と言った。
【補文節・直接発話／間接話法】

a. (काल) तो म्हणाला की तो आज इथे आला.

(kāl) tō mhaṇā-l-ā ki to āj ithe ā-l-ā.

(yesterday) he say-PFV-MSG COMP he today here come-PFV-MSG

「(昨日)彼は言った。彼が昨日ここに来たと」

b. (काल) तो म्हणाला, "मी आज इथे आलो."

(kāl) tō mhaṇā-l-ā, "mi āj ithe ā-l-o."

(yesterday) he say-PFV-MSG, [I today here come-PFV-MSG].

「(昨日)彼が言った「私は今日ここに来た」」

10-31a は、文と文を補文標識 *ki* ‘that’ で繋げているが、10-31b では補文標識は用いられず、ダブルクォーテーションでセリフが囲われている。

10-32 私はリンゴが(あの)皿の上にあったのを食べた。【内在節・従主・主主】

मी (त्या) ताटलीमधले सफरचंद खाल्ले.

mi (tyā) tāṭali-madh-l-e sapharacand khāl-l-e.

I (that) plate-inside-PFV-NSG apple eat-PFV-NSG.

「私は(あの)皿の中のリンゴを食べた」

10-33 私はネコが家に入ってきたのを捕まえた。【内在節・従主・主目】

मी घरात आलेली मांजर पकडली.

mi gharā-t a-l-e-l-i māñjar pakaḍ-l-i.

I home-PP come-PST.PTCP-FSG cat catch-PFV-FSG.

「私は家に入ってきた猫を捕まえた」

10-32 と 10-33 は、主要部内在型関係節である。マラーティー語では、10-32 はパラフレーズで表現し、10-33 では過去分詞を用いた表現を使っている。

以上、本節ではマラーティー語の否定、形容詞及び連体修飾に焦点を当てて分析を行った。マラーティー語では、文末に否定動詞 *nāhi*、または否定辞 *nāhi* + 助動詞 *āhe* を置くことで否定文が形成される。禁止表現は、非定形動詞の後に命令を含む否定辞 *nako* (sg.) / *nakā* (pl) が後続する。連体修飾文については、過去分詞や属格を用いた構文の他に、補文標識 *ki* ‘that’ を使う複文や、後置詞 *-tānā* ‘while’ を使った表現も観察された。

略号

1	first person	LOC	locative
2	second person	M	masculine
3	third person	N	neuter
ACC	accusative	NEG	negation
ASSR	assertion	NOM	nominative
COMP	complementizer	OBL	oblique
COR	correlative	PASS	passive
CP	conjunctive particle	PFV	perfective
CVB	converb	REDUP	reduplication
DAT	dative	PL	plural
DESI	desiderative	POSS	possessive
EMPH	emphasize	PP	postposition
ERG	ergative	PRED	predictive
F	feminine	PROSP	prospective
FUT	future	PRS	present
GEN	genitive	PST	past
HAB	habitual	PTCP	participle
HORT	hortative	Q	question particle
IMP	imperative	REL	relative
IPFV	imperfective	SG	singular
INF	infinitive	S.INF	short infinitive
L.INF	long infinitive	VOC	vocative

参考文献

欧文

- Chida, Satomi. 2022. "A Contrastive Study of Adverbial Clauses in Marathi and Japanese". Doctoral dissertation, Deccan College Post-Graduate and Research Institute.
- Dhongde, Ramesh Vaman and Wali, Kashi. 2009. "Marathi". John Benjamins Publishing Company.
- Pandharipande, Rajeshwari V. 1997. "Marathi. (Descriptive Grammar Series.)". London: Routledge.
- Pardeshi, Prashant. 2000. "Transitivity and voice: A Marathi-Japanese contrastive perspective". Doctoral dissertation, Kobe University.
- Pardeshi, Prashant. 2016. "A Functional Account of Marathi's Voice Phenomena: Passives and Causatives in Marathi". Brill Publishers.

和文

- 風間伸次郎.2014.「テーマ企画：特集 他動性 まえがき」,『語学研究所論集』19, pp.33-70.
- 風間伸次郎.2015.「テーマ企画：特集 (連用修飾的) 複文 まえがき」,『語学研究所論集』20, pp.15-41.
- 風間伸次郎.2016.「テーマ企画：特集 情報構造と名詞述語文 まえがき」,『語学研究所論集』21, pp.17-44.
- 風間伸次郎.2017.「テーマ企画：特集 情報標示の諸要素 まえがき」,『語学研究所論集』22, pp.25-45.
- 風間伸次郎.2018.「テーマ企画：特集 否定、形容詞と連体修飾複文 まえがき」,『語学研究所論集』

23, pp.17-37.

風間伸次郎.2020.「英語：特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定，形容詞と連体修飾複文」，『語学研究所論集』25, pp.139-171.

小林颯.2021.「ヒンディー語の他動性」，『語学研究所論集』26, pp.299-312.

千田聡美.2023.「マラーティー語：特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」，『語学研究所論集』28: 23.

プラシャント・パルデシ.2010.「マラーティー語における他動性のスペクトル」，西光義弘，プラシャント・パルデシ（編）『自動詞・他動詞の対照』，pp.7-32 東京：くろしお出版.

プラシャント・パルデシ，柴谷方良.2020.「マラーティー語の名詞修飾表現－体言化理論の観点から－」．『日本語と世界の言語の名詞修飾表現』．プラシャント・パルデシ，堀江薫（編），pp.413-445 東京：ひつじ書房.

萬宮建策.2018.「ウルドゥー語の否定，形容詞と連体修飾複文」，『語学研究所論集』23, pp.39-47.

吉岡乾.2023.「ブルシャスキー語フンザ方言：特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定，形容詞と連体修飾複文」，『語学研究所論集』28: 16.

吉田樹生.2023.「シンハラ語における他動性」，『語学研究所論集』28: 19

執筆者連絡先：satomichida7@gmail.com

原稿受理：2024年12月8日